

第4回 ボトムプラウ 有機物循環農法体験記 受賞作品発表

(スガノ農機株式会社・ボトムプラウ有機物循環農法体験記より転載)



去る二月一七日、スガノ農機(株)主催による恒例の「ボトムプラウ有機物循環農法体験記」授賞式が、同社の本社事務所講堂(茨城県稲敷郡)で行なわれた。この体験記は、毎年四月〜一〇月にかけて一般公募されるもので、毎回全国各地からそれぞれの経営哲学に基づく実証体験記が数多く寄せられている。

審査には、本誌でもおなじみの村井信仁氏(社)北海道農業機械工業会専務理事)はじめ、スガノ農機トップと小誌編集長が当たり、文章よりも内容に重点を置いて選考を進めた。ここでは受賞者のみなさんと作品のほんの一部を紹介する。なお同社では希望者に受賞作品集を無料で配布している。(文中敬称略)

賞 良質粗飼料生産の 秀 基本「土」 優 鹿児島県鹿屋市 最 上松百合子

私の住む鹿屋市は鹿児島県の大隅半島の中央部にあり、高隈連山の裾野に広がる畑作台地(畑率七七%)から成っています。

(中略)
私自身、ほとんどの機械作業は行いましたが、初めてプラウを使ったときは、今まで味わったことのない感動がありました。鮮やかに起こされた土を見たときは、自分の全身までもが甦ったような気持ちになったのが不思議です。それ以来、農作業の中では作物を作る前の土づくりが一番大切な仕事になり、自然のサイクルをうまく利用するのが農業であると教えられたような気がします。今は、良質の粗飼料を作るためにも基本である「土」にそれだけのことをしてあげなければと思っています。

(中略)
昨年のような冷夏、長雨、日照不足の年でも二〜三割程度の減収でしたが、今年は逆に気象条件に恵まれたこともあり、平年は一〇アール当り五〜六トンの収量ですが、今年は一〇トンという今までにない増収でした。

(中略)
酪農の場合は、粗飼料の生産量や質の違いによって、個々の経営に大きな差として表われます。搾乳牛一頭当りの乳量が地

域平均の八六七二キロに対し、私の家では九七五二キロであり、年々所得率も高くなってきました。プラウの効果が十分出てきたと思います。

(中略)
基本的には土・草・牛が土台であり、これらは物質的循環で草地から草を牛が食べて牛の糞尿を草地に還元する。この物質的循環は自然の鉄則であり、このバランスが崩れると経営が回らないし、自然環境などの汚染につながっていくことになりました。

これからはごまかしの通じない時代であり、スタイルがどうであれ、土・草・牛の上に立っているのが農業だと思っています。

賞 緑肥・鶏糞で 土中生態系が健全 秀 大分県玖珠郡九重町 優 江藤一幸

ライ麦・ソルゴーの緑肥と鶏糞での土づくりは、プラウの力です。

(中略)
農業とは楽しく、そして、この世の中で人間にとって一番大事な尊い仕事だと思っています。どんなに工業が栄えても、車、テレビを食べて命を承らえることはできない。農・漁民の手を通じた物を食べなければ、神からいただいた命を全うできない。このような視点で考えると「農業」という業は、神様の次の仕事であると思えば、プライドを持って百姓をしている。

作 安全・美味は 特栽米の命 佳 愛知県岡崎市 三浦茂樹

自然環境に負けない稲をつくるためにサブソイラは排水・透水の改善に使います。土づくりは、三年に一度小麦を作り、その後、緑肥のソルゴーを作り、堆肥をふってプラウでスキ込みます。

(中略)
私は特別栽培米として全量を一家庭に直接販売を行っています。したがって、味などの品質には十分注意し、安価で安全な農産物を作ることだと思っています。除草剤はプラウのお陰で用量が少なくなりました。

作 返し続ける 輪作体系 佳 山口県庄原町 山脇 寿

花・野菜・米など地球上の土に根を張ったものだけを農業と言ふべきと、常日頃思っています。根本理念はいかに土にお手伝いしてもらえるかを考えなくてはいいけない。一〇〇の物を取り上げれば一五〇のお返しをする心根がなくてはならない。

(中略)
プラウは正に耕す感じ、きれいに反転する土を後目で見て運転する気持ちは、爽快感があり、何もかも忘れる位の精神的満足がある。